

## おもてなしの心で町をPR

### 大河原町インバウンド観光ボランティア養成講座

にぎわい交流施設において、昨年12月1日から今年の3月10日までの期間で全6回、「大河原町インバウンド観光ボランティア養成講座（主催：大河原町）」が開催されています。

年々桜まつり期間中には多くの外国人観光客が訪れるようになってきていることから、外国人観光客にもっと大河原町を楽しんでもらおうと、桜まつりの案内所をサポートする観光ボランティアを募集したところ、今回18名のかたが参加されました。

講座では、外国人の先生を囲んでおもてなし英会話やおすすめ観光コースの検討などが行われ、参加者からも積極的に意見が出されました。



▲桜まつりでは、参加された皆さんの活躍が期待されます。

## 認知症は身近なもの

### 金ヶ瀬中学校で認知症特別授業

2月13日、金ヶ瀬中学校で3年生を対象に、認知症をテーマとした特別授業が開催され、生徒たちが認知症サポーターとして認定されました。

これは、昨年から開催されているもので、はじめに、かわち医院の河内三郎先生から、認知症とは何か、認知症の症状や原因などの説明があり、続いて地域包括支援センターの菊池社会福祉士から認知症の人に接するときの注意点や認知症サポーターの取り組みなどの説明を受けました。

生徒たちは、講師の話に耳を傾け、認知症は自分の家族やいずれ自分にも起こりうるものであることなど、認知症についての理解を深めていました。



▲「認知症サポーター」の証、オレンジリングをつける生徒たち。

## 料理人が本格技を伝授

### 地元グルメを学ぶ 食の職人☆手ほどき講座

町内商店街の店主等が講師になり、料理等のコツや専門知識を教えてくれる講座「食の職人☆手ほどき講座」が2月2・10・16日の3回開催されました。

初回となったこの日は、14名が参加。「お食事処さくら家」の姉崎氏を講師に招き、翌日の節分に合わせ、恵方巻きと茶碗蒸しを作りました。料理人の本格的な技やコツを教えてもらい、完成後はみんなで実食しました。参加した人たちは、「店主とお近づきになれて、お店に親近感がわきました。」ととても満足していました。(今月号表紙掲載)



▲恵方巻きの具材の並べ方や巻き方を教わる参加者。

## 新たな観光スポットとして

### 「町観光PRキャラクターさくらっきーの石像」除幕式

2月12日、駅前広場で「町観光PRキャラクターさくらっきーの石像」の除幕式が開催されました。

石像は、株式会社八重樫工務店の創立70周年記念事業として制作され、地域活性化の願いを込め、町へ寄贈いただいたものです。高さ約150センチ・重さは約1トンあります。

これから桜まつりの時期を迎えるにあたり、訪れた観光客の観光スポットの一つとして、また、町民の皆さんもぜひ駅前に足を運び、一緒に写真を撮るなど、楽しんでいただければと思います。



▲石像と一緒に、左からさくらっきー、八重樫社長、齋町長。

## 花よりお花見弁当？ 地域食材を活用したお花見弁当発表会

2月19日、にぎわい交流施設にぎわいルームを会場に「お花見弁当発表会（主催：大河原町商工会）」が開催されました。今年は飲食店等7業者が出品し、おおがわら桜まつり実行委員会などの関係者約20名が試食を行いました。町内特産のもちぶたをはじめ、地域の食材をたっぷり使って作られた7つの弁当は、どれも彩り豊かとなり、花見にぴったりな出来栄えとなっていました。

参加者はまず見た目を楽しみ、それから実際に食して、「春らしい工夫された味」「ボリュームもあって喜ばれる」と、ひと足早くお花見の雰囲気を楽しんでいました。

今回出品されたお弁当は、4月3日から18日の桜まつり期間中、会場（白石川公園）でどれも1,000円（税込）で限定販売予定です。



▲一足早く花見弁当を堪能した参加者。



どのお弁当も春らしい彩り豊かな出来栄えとなっていました。

## 県南首長と知事が大河原町に集合

### 第27回宮城県南サミット

1月30日、にぎわい交流施設を会場に、県南4市9町の首長と宮城県知事が意見交換などを行う「宮城県南サミット」が開催されました。

サミットは国登録有形文化財の「佐藤屋邸」を視察。続いて佐藤屋プロジェクトの佐藤源之氏と渡辺常男氏による講話がありました。

その後、村井宮城県知事を迎えての意見交換会が行われ、各市町長は、地域振興支援や地方創生など幅広い分野で意見を交わしていました。



▲県南各首長と意見を交わす村井知事。

## 夢に向かって第一歩

### 第56回大河原中学校立志式

2月1日、将来の決意や目標を明らかにし、大人としての自覚を深める大河原中学校伝統行事「立志式」が、えずこホールを会場に行われました。

この日、立志式を迎えたのは2年生201名。「十四歳に想う」と題し、6名の代表生徒がステージに立ち、将来の夢とその実現に向けた決意を発表しました。その後は、立志生全員がステージに上がり記念合唱を披露。力強い歌声と堂々とした姿に会場からは惜しみない拍手が送られました。

最後に、代表生徒が両親へ感謝の手紙を朗読し、来場した多くのかたが感激して涙を流しました。



▲将来の夢と決意を堂々と表明した代表生徒。